

月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた 教育史研究を求めて

第129号 2025年9月15日

編集・発行 『月刊ニューズレター 現代の大学問題を
視野に入れた教育史研究を求めて』編集委員会
(編集世話人 富岡勝・谷本宗生)

連絡先 大阪府東大阪市小若江3-4-1
近畿大学教職教育部 富岡研究室

e-mail: tomiokamasa@kindai.ac.jp

HP (最新号とバックナンバーを公開中)

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/komiyama/gen-dai-kyou-ken/>

コラム 短期大学の役割とは?	山本 剛	2
福井私城校長の持論「我が校の使命」 — 宇部高等工業学校初代校長の考え —	谷本 宗生	5
女子教育史散策・昭和戦時下編(78) 金城女子専門学校及び付属高等女学部の場合 I	長本 裕子	8
進学案内書にみる戦前期東京の予備校(17):『入学選定男女 東京遊学案内と学校の評判』(大正7年)(1)	吉野 剛弘	15
『嘉納治五郎』(1964年)を読む(8) 嘉納塾における嘉納治五郎(その3)	富岡 勝	20
刊行要項(2015年6月15日現在)		25
短評・文献紹介 アニメ作品「公女殿下の家庭教師」第6話「憧 れの王立学校」について(谷本)、Fast Company 「もはや思考 停止…AI依存度がわかる5つの危険サイン」について(富岡)		26
会員消息 山本剛、谷本宗生、富岡勝		27

コラム

短期大学の役割とは？

やまもと たけし
山本 剛

(有明教育芸術短期大学)

短期大学の役割は終わったのであろうか。『朝日新聞』(2025年3月31日配信)には、「短大の役割 終わったとみなすのか 募集停止が急増、国が制度見直し」と題して、次のような記事が掲載されている。

保育士や幼稚園教諭、栄養士。地方で活躍する人材の養成には、短期大学が大きな役割を果たしてきた。だが、1990年代をピークに学校数も学生数も減少が続く。特に今後3年で学生募集を停止する短大は44校と急増し、全体の16%にもなる。国の厳しい「ペナルティー」が、多くの短大に撤退を促している。「少子化に加えて、国の修学支援新制度の対象外となったことが大きかった」。今春の入学者限りで学生募集の停止を決めた、ある地方の私立短大の学長は悔しがった。開学から50年以上。卒業生は1万人を超す。保育士をはじめ、「地域産業を支える人材を輩出してきた」と話す。近年は、学カテストを課さない総合型・学校推薦型選抜で大半の学生を集めてきた。しかし、9割台だった入学定員充足率が21年度から急速に低下。今春は、充足率6割程度だった昨春より大きく減り、5割を下回ることが確実になっている。(以下、省略)

1950(昭和25)年の発足以来、短期大学が、戦後日本において高等教育機会の多様化と普及を授ける貴重な役割を担ってきた機関であることは周知の通りである。1969年刊行の『大学教育』で、寺崎昌男氏は、短期大学を「日本の高等教育体制の中に一定の明確な位置を占め、それに適合し」て、「多くの青年男女、とくに経済的・社会的条件のために四年間の大学教育をうけることはできないが、しかし高等学校教育よりもさらに高度の専門教育・一般教養を身につけたいと望む男女青年の要求に応えてきたことは明らかである」と評した。

短期大学発足から75年がたった今、筆者は縁あって短期大学に勤務している。上記の記事にあるような、入学者の減少による厳しい経営のなかで、短期大学は存亡の危機に直面していることは、筆者も同感である。今後、どのような選択肢を展開すべきか、残念ながら、その明確な解決策は見えてこない。もはや短期大学の使命は終わったとみなすべきか。

しかし、寺崎昌男氏が述べるように、短期大学が、とくに経済的・社会的条件のために四年間の大学教育をうけることができない青年に高等教育をうける機会をひらいてきたという歴史的意味は忘れてはなるまい。そのことは、75年がたった今も短期大学が存在する大きな理由であると思う。

さて、近年、18歳人口の急激な減少傾向のなかで、高等教育機関に学ぶ新たな進学層として、特別支援学校高等部を卒業した生徒、不登校の生徒、通信制高等部卒業者などの新たなグループが注目されている。短期大学がこれらの層の進学先になることは十分に考えられる。

ただし、磯田文雄氏が指摘するように、こうした層からの進学者に対して、大学側の受け入れ態勢は十分ではない。また、磯田氏は、一般の高等学校卒業生そのものにも学習面での本質的な変化が生じているとして、これまでの伝統的な大学の学びとは全く異なる大学教育が必要であると述べる。

ここで、短期大学の今後の役割に目を向けるならば、従来とは違った層からの進学者を受け入れ、それらの入学者のための手厚い教育を行なうことが求められる。これまでの伝統的な大学教育観は変えて行かざるを得ない。そのことは、日々、短期大学の学生たちと接してみて、痛切に感じることである。高等教育を受けたいと願う彼らのために、高等教育機関としてふさわしい教育の質を維持しつつ、多様な進学者の要求に応えることが短期大学の急務の課題であると考えている。

参考文献

朝日新聞、2025年3月31日配信。

海後宗臣・寺崎昌男『大学教育』（東京大学出版会、1969年）。

磯田文雄「政策・経営側から見た高等教育研究と専門家養成」『高等教育研究』第26集（2023年）。

福井私城校長の持論「我が校の使命」

— 宇部高等工業学校初代校長の考え —

たにもと むねお
谷本 宗生(大東文化大学)

軍需工業の発展と工業技術者の需要増加にともない、1939(昭和14)年に地元地域の寄付行為をうけて新設された7つの官立・高等工業学校(室蘭・盛岡・多賀・大阪・宇部・新居浜・久留米)の1校が、宇部高等工業学校(初代校長:福井私城)であった。

福井校長が持論「我が校の使命」を、雑誌『受験旬報』(1941年2月)で明らかにしているので、以下に示しておこう。

…自由主義国家の最大の弱点は、国家の総力が国家目的に向つて統一されて居らぬことである。その一例を学問、教育に見ることが出来る。従来の自由主義地盤の上に形成された学問、教育は、当然それが役立たねばならぬ国家を生かし、発展せしむることを忘れ、理論のために理論を追求して倦むことを知らなかつた。…それは、政治学であれ、経済学であれ、文学であれ、工業であれ何等差異のあるものではない。殊にそれは、現在の如く、国家の総力を最も有効に発揮せねばならぬ事態に直面している日本国家の強烈なる要求である。茲に本校の教育方針も自ら確立してくる。

…本校に於ける学科内容もまた専ら斯る方針に立脚して編成せられている。その特色の二、三を挙げれば、第一に国民的教養を高め、国民的性格を錬成するために、修身の外更に国民科を課していることである。これによつて動もすれば眼前の功利打算に囚はれ、一週一、二時間の精神的修養すら、これを怠らんとしていた従来の技術者養成の態度を根本的に清算しようとしたものである。第二に語学については、文字通り日に新たなる進歩を遂げつつある工業に従事する人々にとつては、絶えず外国文献を参照することが極めて必要であるから、本

校に於ては英独両語の文献を十分読破し得る程度に至らしめんことを期している。それがために、未だ全く素養のない独逸語に最も多くの時間を配し、英語は従来の文学的英語を避け、専門書の読書力養成を主眼としている。語学に於て、特に本校の特色とも称すべきものは、大陸活躍の素地を作り、大陸に対する関心を昂めんがため、必修科目として支那[ママ]語を課していることである。

第三に専門学科の根底をなす基礎学(数学、物理学、化学等)には特に力を注ぎ、日本の学校出身者に欠乏していると言われる研究能力、独創力を涵養することを期し、如何なる技術的困難に直面するとも、飽くまでこれを解決せねばやまぬ所謂底力のある人物を養成せんことを努めている。第四に専門学科は、徒らに枝葉末節の暗記に力を浪費することを避け、その根幹を十分に会得せしめ、確実なる知識と実習実験と相俟つて、技術者としての実力を養はんとしている。私は以上の如き努力が綜合されて、将来必ずや見事なる結実を生むものと信じている。

実践的な語学力の充実や自然科学系の基礎学力の向上などを挙げている。さらに、福井校長は教育者として、いわゆる入試だけの勉学を否定し、健全な青年として普段から、心身の鍛錬の必要性も強調している点もやはり軽視できないであろう。

…本校は所謂「入学試験の名人」を要求しない。入学試験科目のみに力を注いで他を軽視し、好んで畸形的学問をなしたやうな者は歓迎しない。中等学校の教育は、心身共に健全なる日本人を作る教育であつて、これを勝手に取捨するが如きは、従来の考へ方からは或は看過されるかも知れぬが、新時代に於ては到底許容さるべきものではない。また本校の志願者は是非身体の鍛錬に意を用ひて欲しい。最近折角難関を突破して入学しながら、学業半ばにしてこれを抛棄せねばならない者も僅少ではないのであるが、これは本人のため同情に堪へ

ないのみならず、国家のため誠に憂ふべき現象である。青年の最大の価値は旺盛なる生命力である。澆刺たる心身を失つた青年は、青年としての価値の大半を喪失したものである。また今後の日本は脆弱なる青年の手に委ねて安心の出来るやうな生やさしいものとは思はれない。如何なる困苦欠乏にも耐へ得る剛健なる心身が切望されている。従つて、積極的に身体を錬ることは、全く皇謨翼賛の重大なる一面であることを忘れてはならない。

宇部高等工業学校については、当初は山口市をその候補地に想定していたとされるが、経費の点などの余裕の有無から、実際には山口市から地の利も大きいとされた宇部市へと候補地変更がなされたという。

女子教育史散策・昭和戦時下編(78)

金城女子専門学校及び付属高等女学部の場合I

ながもと ゆうこ

長本 裕子(ニューズレター同人)

はじめに

1917(大正6)年に、官公私立合わせて395校であった高等女学校(実科高等女学校を含む)が、1936(昭和11年)には985校となり、約2.5倍に増えた。生徒数は大正6年の10万9,857人から昭和11年には43万2,553人となり、約3.9倍に増えた。

また、高等教育機関としての専門学校令による私立女子専門学校が大正末期から昭和初期にかけて次々と開校され、1929(昭和4)年6月までに認可された学校は全国に31校あった。この私学の勢いに刺激を受けて、府県立女子専門学校が福岡県、大阪府、宮城県、京都府、広島県に5校開校された。昭和10年度『文部省年報』によると、全国の公立女子専門学校の生徒数は1,640人、私立女子専門学校の生徒数は1万3,909人(外国人163人を含む)で、合計1万5,549人。このうちの約70%が東京府下の学校に在籍していた。

このように興隆を見せていた女子教育だったが、1931(昭和6)9月、満州事変勃発、1937(昭和12)年7月、日中戦争へ突入、翌年4月1日、国家総動員法が公布されると、学校も変化を余儀なくされるようになる。戦争末期の米軍による空襲のために校舎や資料を焼失した学校も多い。戦時体制下、文部省等により教育現場に下された通達の、特に女子専門学校や女子高等女学校に関する主なものを中心に、女学生たちの学校生活はどのような様子であったか、残った資料や在校生らの回想などで編まれた記念誌を参考に述べてみよう。

金城女子専門学校及び付属高等女学部の場合

招魂社参拝

1937(昭和12)年9月、文部省は「国民精神総動員強調週間実施二関スル件」を通達した。実施要項には「…都会地ニ於テハ学生、生徒、青年団等ヲシテ神社ニ参拝後行

進ヲ行ハシムル等拳国一体時局ニ対処スル堅忍不拔ノ昂揚ヲ期スルコト…」とあり、神社参拝や行進が義務付けられた。強調期間は10月13日～19日の1週間である。

当時、校長市村與市は外遊中、校内校長と言われていたL.C.M.スマイスは入院中、そこで学校の責任は、校外校長と言われていた教頭柴田勝衛に委譲された。ラジオ放送での「国民朝礼ノ時間」は、午前8時から約20分間、音楽、国歌、宮城遙拝、講話と定められたことを守った。金城で朝の礼拝の前に、国歌斉唱、宮城遙拝はこの時から行われるようになった。17日、全職員生徒は招魂社参拝を行い、皇軍将士の武運長久を祈った。金城女子専門学校最初の神社参拝であった。ミッション年会によって禁じられていた神社参拝を行ったことで、ミッションは金城と公式に断絶することになる。

この10月から毎月2回ずつ各学年が順次陸軍病院に負傷将兵を慰問する。各班1個ずつ、平均価格2円くらい、計122個の慰問袋を作製し、12月20日、師団司令部に持参した。寄宿舎生有志は、毎週土曜日、陸軍病院を慰問し、包帯巻きやその他の作業の奉仕を始めた。生徒の中で応召した家庭の留守宅を学級主任、級友代表が訪問し、見舞い品を進呈して慰問した。

物資の節約はじまる

1938(昭和13)年1月、石油、石炭の消費節約の通達、制服新調の場合の原料や裁縫・手芸材料についての通達があった。11年12月に完成した栄光館は全館スチーム暖房だったため、厳しい時代の始まりとなった。制服については16年にはスフの制服となった。セーラー服の線も3線から2線になり、最後には1線になり、スカートの襷ひだは16本と決まった。スフのスカートは、寝押ししても満員電車で登校したときには、襷がよれよれになって、乙女心を悲しませたという。

集団勤労奉仕

1938(昭和13)年7月28日～8月1日までの5日間、勤労奉仕が、校内作業の部と校外作業の部に分かれて行われた。

校内作業の部は、高女部1年生～3年生は主に校舎内の大掃除、高女部4年、5年生及び専門部の生徒たちは戦傷者たちのために白衣を製作した。午前7時に国旗掲揚、朝礼後、作業開始。ただ沈黙して一針一針心をこめて白衣の製作にあたり、勤労の精神、一致団結の精神を学んだ。

校外作業の部は、岡崎種畜場の追進農場での勤労奉仕が7月28日～8月2日までの6日間行われた。28日午後3時、追進農場に到着。松林の宿舎で、午後4時から入場式、講堂で場長の訓示ののち、翌朝から始まる朝礼順序、「やまとはたらき」という体操の説明、



追進農場での勤労奉仕（『金城学院百年史』より）

夕方、農場の見学、質素な夕食、自由時間、午後9時の神宮遙拝で初日は終了した。午前4時起床、5時朝礼、6時朝食、7時作業ズボンに身を固め、梨畑に出かけ、新聞紙の袋と止金で駄目な袋と取り替える作業。午前の休憩は15分が2度。無言の作業。正午の昼食後は2時まで講義、4時から6時まで再び梨畑での作業を行った。

炊事の勤労奉仕担当の専門部の生徒たちは、起床3時、6時までに朝食の準備、食後の茶碗や皿洗いなど大変な作業だったが、鶏のつぶし方などを学び貴重な体験となった。31日、1日、2日は雨のために屋内作業で、梨の袋や止金の整理、作業場のガラス拭き、藁の整理、藁草履の製作などに従事したが、時間をぬって芋畑の除草作業にもあたった。2日の午後、2時閉会式。当時の勤労奉仕は、夏期休暇中の農作業など短期間で、まだ体験学習的であった。追進農場での勤労奉仕は、1940（昭和15）年の夏期には行われなかったが、次第に日常的な作業となっていく。

御真影と教育勅語謄本の奉戴式

1938(昭和13)年10月27日、御真影と教育勅語謄本の奉戴式を行う。栄光館正面壇上中央に、コンクリート造り、菊花紋所の奉安庫が設置された。この日から宿直が開始された。これが学校宿直の起源となる。御真影と教育勅語謄本を守るためであった。

養兔部設置

1939(昭和14)年3月、養兔部が設置された。その目的は、

- ①北満州と中国北部の兵士たちに暖かい毛皮を提供するため
- ②路傍に捨てられた菜っ葉や大根の切れはしを有効に活用するため
- ③動物愛護の精神と飼育の経験、生物学的知識を生徒たちに与えるため

であった。市内の女学校では初めて、愛知県種畜場から種兔が無償で交付された。市農会の養兔主任兼松氏が2月9日に来校し、養兔部員に兔の飼育方法について2時間半にわたる講演があった。運動場の西北隅の箱の中に十数匹の子兔がいた。子をませ、その子が適当な大きさになったら各部員の家庭に1匹ずつ委託して飼ってもらおう方針で、部員は150人であった。

青少年学徒ニ賜ハリタル勅語

1939(昭和14)年5月22日、「青少年学徒ニ賜ハリタル勅語」が公布された。

国本ニ培ヒ国カラ養ヒ以テ国家隆昌ノ氣運ヲ永世ニ維持セムトスル任タル極メテ重ク道タル甚ダ遠シ而シテ其ノ任実ニ繋リテ汝等青少年学徒ノ双肩ニ在リ(後略)生徒たちはこれを暗唱することになる。同年7月7日、通達により、毎年5月22日をトして「青少年学徒ニ賜ハリタル勅語」を奉読し、女子の学校においても分列式または部隊行進を行い、各学校では当日、それぞれ神社参拝、武道訓練、作業訓練を適時行うようにとされた。金城では、9月6日に奉戴式を挙行した。

夏期軍事教練

1939(昭和14)年7月22日から心身鍛錬行事と称して軍事訓練が行われた。教官から、君が代の楽の音に合わせて国旗掲揚、校長訓示、不動の姿勢、敬礼から始まり、重い銃をかついでの行進、折伏しての射撃演習、目標を睨んで銃をとり、声を上げての藁人形を突く銃剣術などの訓練を受けた。生徒たちの肘は擦りむけ、玉の汗が頬を伝っても、充分になし遂げるまでは倒れても止めない気迫で軍事訓練を受けた。8月29日には学務部長と県視学が軍事教練状況を視察に来校。9月1日で軍事教練は終了。9月2日の始業式後に閲兵並びに分列式が行われた。

従来、遠足、ハイキング、ウォーキングと呼ばれていたものが、この年から「行軍」と呼ばれ、9月23日、全校職員生徒が6班に分かれ、全員水筒と握り飯を包んだ風呂敷を十字に背負い、それぞれ行軍を行った。特に第6班(高女部5年、専門部3年など)は、覚王山から和合、東山公園のコースを行軍、その間に伝令連絡その他の動作を演習し、曙峠付近で飯盒炊飯を行った。

「学友会」が「報国団」に

1941(昭和16)年4月1日、「国民学校令」が施行された。生徒の自治活動「学友会」も名称が「報国団」と改称されることになった。金城女子専門学校報国団は同年4月12日に結団式が行われた。報国団長は市村與市校長。式後全校生徒は護国神社に参拝した。

1941(昭和16)年の報国団の活動

鍛錬部は、原榮一部長の下、訓育儀礼班、武道班、陸上競技班、水泳班、屋内野球班、庭球班、籠球班、排球班、卓球班が設けられた。毎日20分の体操は、建国体操、厚生体操、ラジオ体操、大日本体操と整備され、修練を重ね、体操後教師も生徒も行進を行い、そのままの隊形で教室に入場する。

10月25日の創立52周年記念体育大会には、担架競争、手旗信号、薙刀体操、教練など戦時下らしい演技種目が盛られた。

国防部は、近藤武一部長の下、防空防火班、行軍班、集団勤労班、銃後後援班が設けられた。〈防空防火班〉は、生徒全体の防空知識の徹底を図り、防空業務の基礎的訓練をすることが目的。特設自営団の編成と訓練、休暇中も上級生を招集して消防、防毒、避難誘導、救急法（空襲時の止血法、応急手当、繃帯巻、三角巾使用法など）について講義及び実習を行った。〈行軍班〉は、全校行軍（親睦遠足、汐干狩も含む）を数回にわたって実施、脚力を鍛錬する目的で集団強歩も行った。鍛錬部と協力して、閲兵分列を行い、団体行動の訓練をした。〈集団勤労班〉の第一の目標は、食糧増産にあった。1年30日以内では、授業を休んでも増産運動の実践に当たれと命令された。昭区和川名付近の県耕地課の管理地五反歩を無償で借り受け、学校直営農場とし、6月より開墾に着手した。麦、大豆などを蒔き生徒たちは毎日1学級ずつ交代で作業に従事した。農業勤労奉仕は、前年から今年にかけて高女部3、4、5年生が篠岡、鷹米、篠木、高蔵寺、小牧、矢作などの町村に出勤し、稲刈、収穫、除草などに従事し、熱心さと真剣さによって畠仕事を克服し、請入町村から感謝の手紙が続々と届いた。ことに、篠岡村では、7、80人ずつ数組に分かれ、夜は組ごとに寺院または公会堂に合宿し、昼間は朝早くから2、3人ずつ農家に入って収穫の手伝いをした。団体炊事、団体宿泊、共同生活の訓練にもなった。軍作業援助のための補給廠その他への出勤回数は、農業勤労をはるかに越えた。追進農場で7月26日から6日間、指導者修練会が開催され、3年以上の各学級から選抜された120人の生徒たちが12人の教師に引率され、農場において午前4時から午後9時まで、教師も生徒も鍛えられた。〈銃後後援班〉は、廃品を回収したり、軍馬の資料として茶殻を集めたり、陸軍病院を慰問したり、前線将兵に慰問袋を送ったり、本校生徒の父兄で戦没した人々のために追悼会を行ったりした。

文化部は、鈴木二郎部長の下、〈修養班〉は、毎週早天祈禱会・早天讚美歌練習会を開き、8月11日から4日間、校内で夏季修養会を開き、高女部及び専門部は学年ごとに教員の指導の下、聖書研究を行った。〈学術研究班〉は、俳句研究、古代文学研究、歌論研究などの研究会を開き、時には寺跡見学なども行った。〈学芸班〉は、例年通り花の日学芸会を開催し、700人の小学校児童が出演した。

1941(昭和16)年8月、文部省は「学校報国団体制確立方」の訓令を発した。愛知県では、同年9月6日、「愛知県学校報国団規定」が告示された。金城では、同日、報国隊編成の訓練を行った。隊長市村校長、三箇大隊編成の本隊(長・原榮一)、救急、炊事、養護三編成の特技隊(長・中村健三)、三箇中隊編成の特別警備隊(長・近藤武一)を組織し、全教職員と生徒がこれに参加した。同年11月10日、金城女子専門学校は、勤労報告隊旗を拝受した。

十一月十日熱田神宮より神受の勤労報告隊旗を拝受し、金城女子専門学校勤労報告隊の名札を附して奉納、翌日此の奉戴式を挙行した。信条を朗誦し、一同大いに勤労の念、報告の念をつよめんと誓つたのである。(『みどり野』第31号、昭和18年、『金城学院百年史』より)

そして1941(昭和16)年12月8日、日本は米英に対して宣戦布告し、太平洋戦争へと拡大していく。

参考文献

『学制百年史』、『学制百年史 資料編』文部省

『学制百二十年史』文部省

『文部省第四十五年報 上巻』

『文部省第六十三年報 下巻』

『文部省第六十四年報 上巻』

『金城学院百年史』

神辺靖光・長本裕子『百花繚乱 日本の女学校』女子教育史散策 大正・昭和初期編
成文堂 2025年

進学案内書にみる戦前期東京の予備校(17):『入学選定男女
東京遊学案内と学校の評判』(大正7年)(1)

よしの たけひろ
吉野 剛弘(埼玉学園大学)

今号からは、二松堂より刊行された太田秀隆『入学選定男女東京遊学案内と学校の評判』を見ていく。

著者の太田は、同書では「学校調査会」という肩書が記されているが、この会の詳細は不明である。

同書は、「各種学校」「中等学校」「専門学校」「大学」と章を分け、さらに各章が男子の部と女子の部という節に分かれている。予備校が掲載されているのは「各種学校の部」で、中学校に付設された予備校は「中等学校」に掲載されている。

予備校に関しては、同書に掲載されている学校は多いとは言えない。一方で、掲載されたものについては著者の寸評も含め、かなり詳細な情報が掲載されている。この点が本連載で取り上げる理由でもある。

紙幅の関係で、今号では「各種学校」の男子の部に掲載された予備校の一部を見ていくことにする。

一、正則英語学校

所在、神田区錦町三丁目

目的、本校は正則に英語を教授し完全に英語を活用するの士を養成する所とす

本校の卒業生は十四万人にして在學生は四千五百人あり

学級、本校に左の学級を置く

午前部

一、予備科は英語を全く知らざる者の為の特設したるものにして進度を緩め普通科より低度の教科書を用ひ初歩の英語を教授す(本校普通科第一一年級に入らんとするものは必ず予備科を修了するを可とす)

二、普通科は一年二年三年四年及五年の学級を設け各中学校の相当各年級程度の英語を修得せしむ

◎注意 普通科は一年二年三年級は各修業期間を一学期とし四年級の修業期間は各前期後期とす(但し前期より始むるも後期より始めて前期を後にするも学習上何等支障なし)

三、午前受験科は九月より第一学期を開始し修業一学年本校普通科卒業生若しくは中学卒業生は諸官立学校入学に必要な英語を教授す

午後部

一、午前受験科は九月より第一学期を開始し修業一学年、本校規定を卒へたる者若しくは中学卒業程度の学力を有する者に諸官立学校入学に必要な英語を修学せしむ

二、正則補習科は九月より翌年三月まで七ヶ月間、二学期に別ち中学卒業程度の学生にして諸官立学校入学志願の者に須要なる英語及普通学を授く(正則予備学校規則書を参照せよ)

三、臨時受験科は毎年四月より六月まで三ヶ月間、中学卒業生にして諸官立学校入学志願者の為に之を設く

入学資格、入学者は品行方正にして年齢面満十二歳以上の男子たることを要す

学費、学費は左の如し

入学金 午前、午後、夜学部各科金一円

授業料、左表の如し

	学 科	文 学 科	正則補習科	普 通 科	予 備 科
		午前受験科	臨時受験科	英語補習科	(午前夜学共)
学期		午後受験科			
第 一 学 期	九 月	金六円五拾銭	金七円五拾銭	金五円	金四円三拾銭
	一 十 月	分納一ヶ月	分納一ヶ月	分納一ヶ月	分納一ヶ月
	十 一 月	一円八十銭	金二円	一円四拾銭	金一円二拾銭
	十 二 月				
第 二 学 期	一 月	金五円	金五円五拾銭	金三円八十銭	金三円二拾銭
	二 月	分納一ヶ月	分納一ヶ月	分納一ヶ月	分納一ヶ月
	三 月	一円八十銭	金二円	一円四拾銭	金一円二拾銭
第 三 学 期	四 月	金五円	金五円五拾銭	金三円八十銭	金三円二拾銭
	五 月	分納一ヶ月	分納一ヶ月	分納一ヶ月	分納一ヶ月
	六 月	一円八十銭	金二円	一円四拾銭	金一円二拾銭

職員、校長は齋藤秀三郎氏にして主監、伊藤豊平氏

教員、佐川春水氏内外二十余名なり

【評】実力主義の養生に勤める本校の卒業生は、他校に比し優秀なる点多し、齋藤校長の博識、伊藤教員以下の熱心は益々本校の隆盛を招けり

三、研数学館

所在、神田区猿楽町十六番地

目的、本館は数学を教授するを以て目的とす

学級を分て左の三科とす

初等科

	教授程度	教科書
算術	全体	活版刷講義録を与ふ、
代数	初より二次方程式の中途迄	活版刷講義録を与ふ、
平面幾何	初より円の中途迄	活版刷講義録を与ふ、

教授進度

	一ヶ月目	二ヶ月目	三ヶ月目
算術	四則	整数の性質より 分数及小数	比より求積迄
代数	初めより一次 連立方程式迄	因子分解より 分数式迄	一元二次方程式より 二次方程式中途迄
平面幾何	初めより三角 形の中途迄	続きより 平行四辺形迄	円より 円の中途迄

中等科

	教授程度	教科書
算術	全体	活版刷講義録を与ふ、
代数	乗除公式因数分括より比例終り迄	活版刷講義録を与ふ、
平面幾何	初より面積の終り迄	活版刷講義録を与ふ、

教授進度

	一ヶ月目	二ヶ月目	三ヶ月目
算術	四則	分数比例中途	続より終り迄
代数	乗除公式因数分 括より分数終	方程式(一次、二次) より高次方程式迄	高次方程式続きよ り比例終り迄

平面幾何 初より直線形 円論 作図面積の終り迄
 高等受験科

教授程度 教科書

算術 全体練習 活版刷講義録を与ふ
 代数 因数分括より導数迄 活版刷講義録を与ふ
 平面幾何 円論より終迄 活版刷講義録を与ふ
 三角法 全体 活版刷講義録を与ふ
 立体幾何 全体 講義録を与ふ

教授進度

	一ヶ月目	二ヶ月目	三ヶ月目
算術	四則より L.C.M	分数	終迄
代数	因子分括より分数	方程式	二項法、導数迄
平面幾何	円論より切線	続きより面積	終迄
三角法	初より複角	三角形性	終迄
立体幾何	初より垂線	体積	終迄

職員、館長、長橋瀧藏氏、講師木原寅吉氏、吉見輝之助氏、西坂頼次郎氏
 【評】奥平氏亡後、少しく内紛ありしも、今は無事に納り育英に皆勤む、斯の種の学校としては蓋し第一位にあり

正則英語学校の「学級」の正則補習科の説明の中で、正則予備学校への言及がある。両者の関係を考える上で大変興味深いのが、この本では正則予備学校の紹介はされていないので、詳細は不明である。

次号は、「各種学校」に掲載された予備校の続きを見ていく。

『嘉納治五郎』(1964年)を読む(8)

嘉納塾における嘉納治五郎(その3)

とみおか まさる
富岡 勝(近畿大学)

はじめに

第126号より、『嘉納治五郎』(講道館、1964年)を通して、嘉納治五郎が創設した嘉納塾における嘉納治五郎の取り組みを見ている。

第127号では、知人の子弟を嘉納治五郎があずかって始まった嘉納塾では、裕福な家の出身の子弟がつい、我儘・惰弱へ流れがちであることを警戒して、年齢によって成年舎、中年舎、幼年舎に分けて、寺院教育をモデルにしたような塾内規則書をつくっていたことを紹介した。

本号では、創始時の嘉納塾での、具体的な日課を紹介していく。

早朝起床、警醒当番

嘉納塾の朝について、『嘉納治五郎伝』で次のように記されている。

塾の生活は早朝の起床に始まる。嘉納は「人は何時に起き上がらねばならぬというその必要の時間にきつと目を醒ますことが出来るだけの訓練を平素につけておかねばならぬ」といい、警醒当番を置いた。塾生はかわるがわるこれに当り、定刻までには起きていて鈴を鳴らして他の塾生を起さねばならなかった。就寝時刻が早いとはいえ、塾生にとって早起きは相当つらいことだった。ことに柔道の寒稽古の期間には、さらに早く暁に起き出て道場に出て柔道稽古に汗を流し、朝食をすまして、それから登校したので、嘉納塾生は授業中居眠りをする者が多いと学校から注があったこともあった。南郷

日課表のように、幼年舎の塾生は午前4時40分に起床し、午前六時の朝食前に掃除と修学が課されている。午前4時40分は、空は真っ暗だろうと思われる。

この起床時刻は、禅寺修行と同じなのだろうか。第127号で、嘉納治五郎が定めた塾内規則には「上野・浄名院の住職との交際を通じて、嘉納が見聞した律宗の厳格な戒律に学ぶところが大きかった」という記述を紹介した。残念ながら、この上野・浄名院や、律宗の寺院での起床時刻は今のところ分からないが、インターネットで入手できる情報としては、曹洞宗では、次のようなタイムテーブルが用いられているようだ。()内は富岡。

午前3時30分 ^{しんれい}振鈴(起床の時間を知らせること) ~起床~
午前3時40分 洗面
午前3時45分 暁天座禅
午前4時30分 ^{ちょうかふざん}朝課諷経 ~朝のおつとめ~
午前6時30分 小参(修業上の指導を受けることのできる時間)
午前7時 小食 ~朝食~
(曹洞宗ネット より)

<https://www.sotozen-net.or.jp/soto/sodo>)

この曹洞宗の例と比較すると、起床時刻は嘉納塾のほうが1時間ほど遅いが、嘉納塾の警醒当番が振鈴に対応していることが推測される。やはり、寺院での生活を参考に嘉納塾の朝のスケジュールが設定されていたのかもしれない。

清掃

また、嘉納塾での起床後の清掃についても、『嘉納治五郎伝』に次のような記述がある。清掃に力が入られていることも、寺院での修行を彷彿させられる。

嘉納は塾生活のすべての雑事を塾生自らの手で行わせた。塾生は起床後、自分の寢床の始末は勿論のこと、塾の内外・庭・門前等を手分けして清掃した。五時には一同道場に出て朝礼。その後、六時の朝食を告げる鈴が鳴るまでは自習時間だった。午後も、下校して塾に帰った塾生は、輪番で毎日、風呂・ランプ掃除を、日曜日の午前には便所掃除をすることになっていた。なかでも辛いのはランプ掃除で、十数個のランプの、芯を古花鋏で平らに剪ったり、煤けたホヤを磨き上げたりするのは根気がいる仕事であった。当番以外の者は四時の夕食まで自由に遊び、夕食後は全員道場へ出て柔道の稽古をした。幼年舎生は八時までが学習時間で、その後、師に敬礼・就寝という一日であった。

幼年舎生には、こうした日課の中で、就学・遊戯の方法から、室内外の掃除・所有品および身辺器物の整理に至るまでこれを監督指導した。

(『嘉納治五郎伝』129頁)

幼年舎での監督

先ほどの日課表にもあったように、中・成年舎よりも幼年舎のほうが起床時刻が早い。生活上の監督も幼年舎のほうが厳しかったとする、次のような記述もある。

嘉納は塾生が世俗の流弊に染まることを避け、また父母の家庭であまやかされることを避けるために幼年舎生の日常生活を特に厳しくした。

幼年舎生には、一切金銭をあつかうことを許さず、学用品などは必要に応じて監督に申し出させ、現品を買い与え、代金は銘々の「用品控」に記帳しておき父兄との間で精算した。父兄からの送金も塾生の手を経ることなく、塾へ直送することとした。

中年舎生になると、毎月少額の小遣いを与えておき、紙・鉛筆等の小買物は銘々の随意にさせ、舎長が監督・指導して金銭の計画的な使用の習慣を養い、浪費を慎むことを教えた。

幼年舎生には通学以外の単独外出は許さなかった。父兄または保証人が東京に在住する者に限り、毎月二回（第二・第四日曜日）帰宅を許した。

（『嘉納治五郎伝』132頁）

つまり、嘉納塾の特徴の一つは、とくに年齢の低い（初等科生徒も含む）塾生を、父母のもとでの甘やかしの習慣から切り離し、禅寺を参考にした早朝からのスケジュールで、塾生にきわめて規則正しい生活を送らせようとしたことであつたといえるだろう。

ただし、嘉納塾は厳しいだけでなく、楽しみの要素も用意されていたようである。それについては、次号で紹介したい。

『月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』
刊行要項(2015年6月15日現在)

1. (目的) 広い意味で「現代の大学問題へのアプローチを視野に入れた研究」を各執筆者が互いに交流し、研究を進展させていくことを目的にこのニューズレターを発行します。
2. (記事のテーマ) 記事は、広い意味で現代の大学問題へのアプローチを視野に入れた研究であれば、高等教育史だけでなく中等教育史や初等教育史なども含めた幅広いテーマを募集します。
3. (刊行頻度・期間) 研究進展のペースメーカーとするため毎月刊行し、最低限3年間は継続します。
4. (編集委員会・編集世話人) 発行主体は編集委員会とし、編集責任者として編集世話人を設け、当面は富岡勝と谷本宗生が担当します。編集委員は、執筆者の中から数名程度募集します。
5. (執筆者) 執筆者は、最低限1年間参加し、原則として毎月執筆してください。ご希望の方は、編集世話人までご連絡ください。執筆者は、刊行経費として毎年600円を負担してください。
6. (記事の責任) 記事の内容については、執筆者で責任をもって執筆してください。参考文献・引用文献の典拠を明らかにするなどの研究上の基本ルールはもちろん守ってください。また、ごくまれに、編集世話人の判断によって記事の掲載を見合わせる場合があります。
7. (記事の種類・分量) 記事の種類は、論考、研究上のアイデア、史資料の紹介、先行研究の検討など研究に関するものでしたら何でも結構です。記事1本分の分量は、A5サイズ2枚～4枚ぐらいを目安とします。
8. 毎月の刊行をスムーズに行うため、レイアウトなどは簡素なものにとどめます。世話人によるニューズレターの印刷は、国会図書館献本用などごく少数にとどめます。執筆者にはニューズレターのPDFファイルをメールでお送りしますので、各執筆者で必要部数をプリンターで印刷するなどして、まわりの方に献本してください。
9. ニューズレターの内容は、下記のホームページで公開します。
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/komiyama/gen-dai-kyou-ken/>
10. ニューズレターを中心とした研究交流をしていきますが、年に1回程度は、必要に応じて執筆者の交流会を開催します。
11. 以上の内容を変更したときは、この要項を改訂していきます。

以上

短評・文献紹介

NL 同人である広島大の小宮山さんから、『東広島教育の挑戦と西条独創教育』（2025年、東広島市）ほかの著作物をいただき、ありがとうございました。かなり読み応えある英文論文もあって、読むには相当な時間がかかりそうですね。さて、秋の読書の合間・ブレイクタイムに、アニメ作品「公女殿下の家庭教師」第6話「憧れの王立学校」を視聴してみました。主人公であるアレンくんは、普段は依頼された公女殿下らの家庭教師をしていますが、とある事情から急に、出身でもある王立魔法学校の臨時・非常勤講師を務めることとなります。第6話では、ちょうどアレンくんの初講義の様子が興味深く紹介されています。自身も単純な保有魔法量では微量ながらも、学生時代からずっとたゆまず努力や研さんを続けてきたと吐露し、後輩である学生らに対しても、自分には絶対にムリなどという安易な考えを捨てなさい!・とあつく力説します。ずっと諦めずに行動すること、奢らずにただただ挑戦をし続けていく姿勢こそが重要だと、若い生徒らに伝えていました。私も、教育者のひとりとして、このような主人公の持論にはとても感心しました。(谷本)

少し前に見つけて保存していた記事から。インターネット上の LIFEHACKER というサイトに、Fast Company 氏は、「もはや思考停止…AI 依存度がわかる 5 つの危険サイン」(風見隆 翻訳) のという記事のなかで、次のように述べている。

「AI は、私たちを退屈な雑務から解放してくれるはずでした。ところが今や、私たちの思考プロセスに静かに侵入し、新たな依存の対象となりつつあります。かつては自力でこなしていたメール作成やブレインストーミングさえ、AI が簡単に肩代わりするため、私たちは思考を丸投げしていることにほとんど気づきません。(略) つまり AI は能力を「拡張」する一方で、思考力そのものに「取って代わる」危険性ははらんでいるのです」。そして、AI への依存度がわかるサインとして、次のようなものを紹介している。

- サイン 1:【思考の先延ばし】AI なしでは仕事に着手できない
- サイン 2:【集中力の低下】会議の内容が、頭に入っていない
- サイン 3:【自信の喪失】AI で裏付けないと、発言や判断ができない
- サイン 4:【過剰な修正】AI の提案に固執し、ゴールが見えなくなる
- サイン 5:【記憶の外部委託】記憶だけで、要点を思い出せない

私自身は、まだ生成 AI をほとんど使っていないが、「結構使っているよ」という知り合いの声も聞く。たしかに、会議の議事録やメールの文章を AI が作ってくれるのは便利そう。しかし、「AI なしでは仕事に着手できない」というのでは困ってしまう。AI との適切な距離をどのようにとるのか、ということが、仕事や研究をしていく上で、重要テーマになりつつあることを改めて感じた。

そして、AI との適度な距離をとっていく上で役立つことの一つは、私の趣味となっている「手書きノート」の開発だと考えている。(福岡)

会員消息

Windows 10から11への移行・アップデート作業に、ようやく腰をあげて私も取り組みました。古い機種などの場合、残念ながらアップデートの適用外となりますが、移行措置が可能かは設定のアップデート判定で直ぐ分かります。ただ容量のGB数の確保や良好なWiFiの環境、そして必要な再起動の実施がきちんと条件的に整わないと、アップデートもなかなかうまく進まないでしょう。またときに、思いのほか移行作業にかなり時間がかかることもあります。時間がけっこうかかったうえ、予定作業が結果的にうまくいかなくとも、そう安易に諦めてはいけません。ひとつひとつ必要条件をクリアして、ねばり強く作業を継続し移行作業を実現させましょう。

ただそれが面倒でちょっと手間と思う方なら、家電量販店やネットショップにて、お安くWindows 11のPCを購入する手もありますね。同じメーカーの似た機種を選ぶもよし、またこの機会に新たな他メーカーの機種に挑戦してみるのも面白いかもしれません。利用者の好みや使い勝手に合うものをセレクトされたらよいと思います。さあみなさんが、OSのアップに際してどんな選択を実際されるか、とてもお楽しみです。ちなみに私は、旧機種からの11へのアップデートを行いながらも、またOS 11の新機種PCをネットショップにて、チャレンジ精神で安価に購入しましたよ。ふふふ。(谷本)

毎年の楽しみである松本の旧制高等学校記念館夏期教育セミナー(8月30日、31日)に参加しました。今年の大きなテーマは、「学校における生徒自治」。本当に有意義な2日間でした。また来年度も楽しみです。(山本剛)

1週間ほど前から「顔面神経麻痺」になり、薬を飲んでいますが。初期症状、判定方法、過ごし方など色々なことを経験し、学んでいます。この症状の原因は色々あるようですが、多いのがストレスだそうです。忙しくても好きなことばかりしているのでストレスは無いと思っていたのですが、知らないうちに疲労とストレスを溜めていたのかもしれない。しばらくの間、仕事のペースを少し落としながら過ごしてみようと思います(先週、休講にしました。学生のみなさん、申し訳ありませんでした)。さいわい、薬が効いてきて、現在は回復方向です。

症状が始まった頃は、飲食が急に大変になるなどの変化に驚きましたが、この症状、結構あるらしく、複数の方から貴重なアドバイスをいただきました(有難うございました!)。やはり、経験された方からの話は役立ちます。(富岡)

本ニューズレターのPDFファイルをダウンロードし、Adobe Reader等のソフトの「小冊子印刷」機能を利用して「A4 サイズ両面刷り」で印刷すれば、A5 サイズの小冊子を作ることができます。